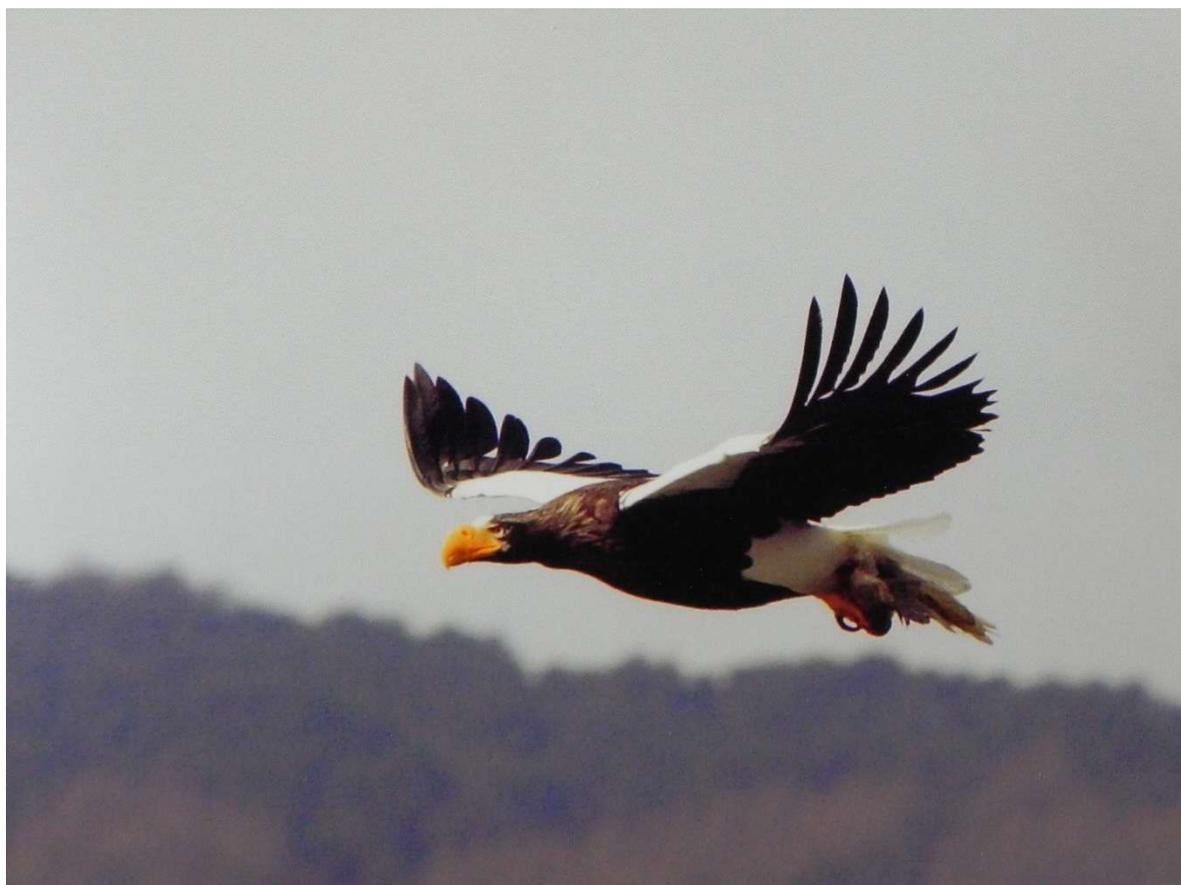


-写真集-

諏訪湖のオオワシ「グル」

1996～2018 の記録



令和8年（2026年）3月
諏訪湖クラブ

あいさつ

諏訪湖クラブ 沖野 外輝夫

オオワシ「グル」は、平成8年(1996年)が諏訪湖への初飛来でした。しかし平成11年(1999年)に湖面で衰弱しているのが見つかり救助されました。いらい約50日を日本野鳥の会の林正敏さんが懸命な手当てをして元気を取り戻し、同年2月に無事に放鳥されました。

その翌年から助けられた恩を忘れないかのように諏訪湖に舞い戻ったのです。人々が待ち望んだグルの再来は多くの人を喜ばせ夢を与えてくれましたが、残念ながら平成30年(2018年)3月に北へ飛び去ったのを最後に諏訪湖への飛来は確認できていません。

今回の写真集は、諏訪湖に滞在したグルの生態を撮影された岡谷市の加藤静さん(故人)はじめ、多くの皆様のご協力によって刊行されたものです。ここにあらためて写真を提供された皆様に厚く感謝を申し上げます。折りにふれて写真集をご覧頂き、諏訪湖の自然を見つめるきっかけにして頂けたら幸いです。



目次

諏訪湖とオオワシ	… p2
放鳥の翌年グルが再飛来	… p4
オオワシについて学ぼう	… p5
オオワシ「グル」のねぐら	… p6
諏訪湖での狩りの様子	… p9
諏訪湖での獲物の争奪戦	… p18
諏訪湖の氷上で食事中	… p21
オオワシ「グル」の勇壮に飛ぶ姿	… p26
日常の中の「グル」	… p31
忘れないで、オオワシ「グル」さん	… p36
編集後記	… p43

諏訪湖とオオワシ

諏訪湖へのオオワシ飛来は、古く明治期にはこの地方の鳥類研究者の間でも知られていました。近年では昭和期以降も時おりオオワシの姿が観察されています。その中で、この写真集で「グル」の愛称で親しまれたオオワシは諏訪湖に固執した特記すべき鳥だったといえます。グルの放鳥に立ち会った千葉県我孫子市の山階鳥類研究所の佐藤文男さんは、諏訪湖を見て「えー、こんなに狭い湖にオオワシがきていたんですか」と驚いていました。佐藤さんは永年にわたり渡り鳥の研究をされた方です。北方から飛来するオオワシも北海道内で一発のロケットネットにより11羽も捕獲し、発信機や標識を付けて放すなど、オオワシの研究もされていました。

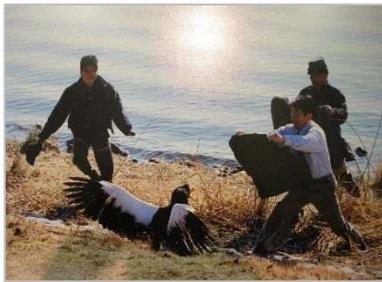
鳥のプロも意外に感じた諏訪湖におけるオオワシの生息ですが、グルのように衰弱して人の手に堕ち、強制飼育にも耐え、厳しい飛行訓練にも挫けず、再び自由の身になりながら再度諏訪湖に飛来し続け、湖面に響くカモよけの爆音にめげず、強く生き続けた全国でも前例のないオオワシでした。



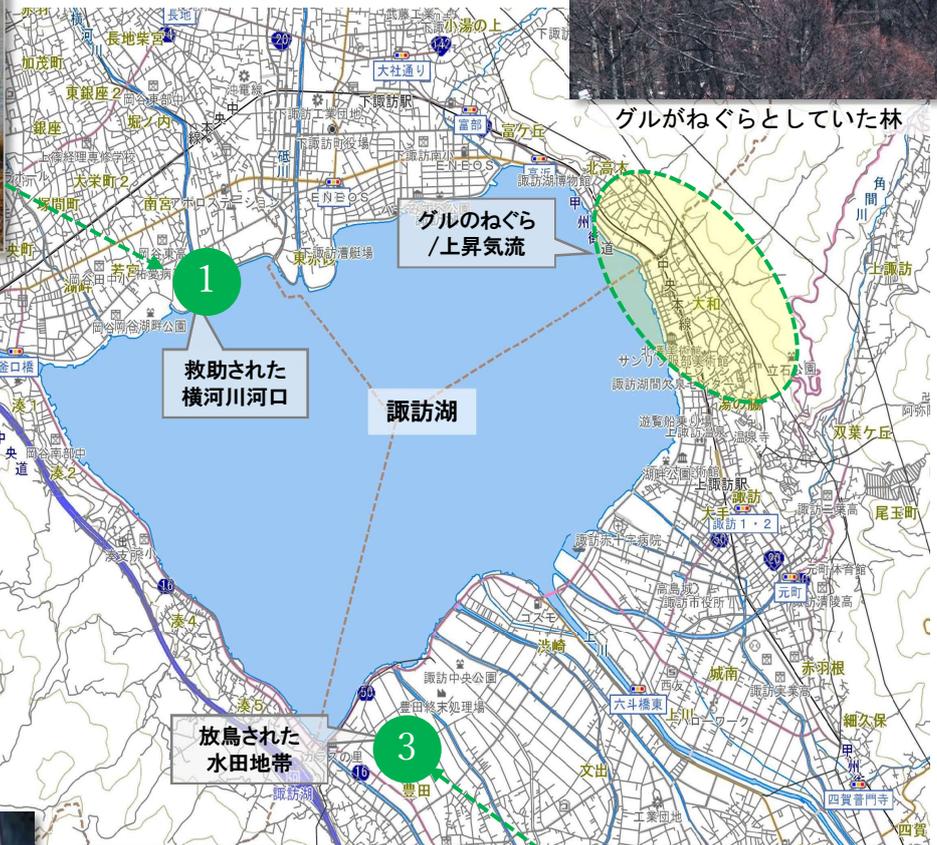
オオワシの診断と治療
(岡谷動物病院)



グルがねぐらとしていた林



①おののくオオワシ捕獲作戦



救助された
横河川河口

諏訪湖

保護飼育された
古民家

放鳥された
水田地帯



②引き取られた林宅に戻ったオオワシ



接近できたのは衰弱がつづく証拠



③放鳥された諏訪市豊田の水田地帯

○介護飼育をへて放鳥へ

保護したグルは、佐藤文男さんの調べで4歳の雌と分かりました。猛禽類の中でもオオワシは水辺に生き魚を主食とするワシであるため、巨大な猛禽の飼育には大量の生魚の調達が必要でした。餌やりは嘴をこじ開けて食べさせる強制給餌が始まりです。毎日の餌の摂取量、週ごとの体重測定、さらには鉛の血中濃度を調べるため、翼から採血して北海道の研究所へ送って測定するなど、懸命な介護が続けられました。

こうした努力が実った放鳥でした。林宅（空き家利用）での介護期間は49日、放鳥時の体重は6,4kg（救助時は5,8kg）、順調な回復ぶりだったといえます。放鳥には多くの報道陣やグルの愛好者、カメラマンなどが集まる中で行われ、飛び立ちを大勢が見守りました。



放鳥場所となった豊田終末処理場の西側



暴れないように衣で包んで運ぶ



多くの取材陣に説明する林



放鳥の直前、心配そうに見守る人たち



飛び去った空を心配そうに見つめる参加者



上昇気流に乗って高く上がっていくグル

オオワシについて学ぼう

オオワシは世界のタカ科の鳥の中でも最大級で、体長（寝かせた状態で嘴から尾の先端まで）はオスが約 90 cm、メスは約 1 m とメスの方が大きな体です。開長（翼を広げた両端の長さ）は 2.2 m から 2.5 m、体重は 5 kg から 8 kg もあります。湾曲した大きな嘴と脚は鮮やかなオレンジ色、羽毛は白と黒の美しいワシです。

○ どこに棲んでいるの？

オオワシは夏の期間はロシアの最も東（ロシア極東）で過ごし、ここで子育てをします。やがて厳しい冬に向かって南下を始め日本や朝鮮半島に渡来しますが、日本では北海道での越冬が中心、一部は本州にも渡ってきます。

○ どんな生活をしているの？

オオワシの餌は大型の魚です。ですから魚が多く棲める湖や河川の周辺の森が彼らの生息地となります。夏場は一定のテリトリー（縄張り）をもって生活していたオオワシも、越冬期にはより餌の豊富な場所に集まるようになります。この行動はムクドリのような集団的な行動ではなく、餌を求めて個々に集まったワシたちで、行動はばらばらです。

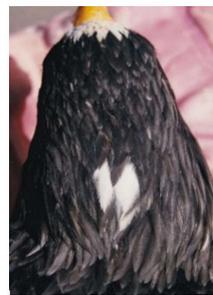
○ オオワシ「グル」の特徴



鋭い目と大きな嘴はオオワシの特徴。諏訪湖では対岸の獲物も見逃さないほどの視力をもっている。



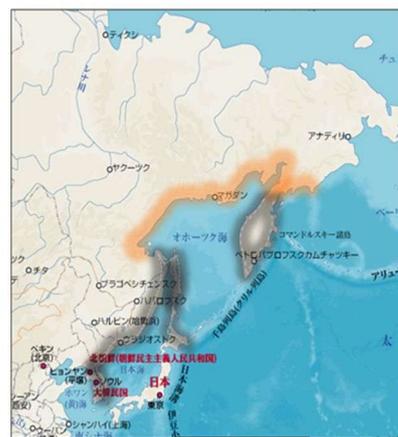
太い脚と鋭い爪は最強の武器。握る力も強大で捕えた獲物を絞め殺す。



後頭部にある白斑はグルの特徴のひとつ。



4歳になってもまだ幼鳥の羽が1枚だけ右の翼に残っていた。（写真では矢印と反対側の同じ所）



越冬地 繁殖地

オオワシ「グル」のねぐら

冬の諏訪を越冬地と決めたオオワシ「グル」、その条件とは何だったのでしょうか。

平成8年(1996)に初めてやってきたグルは、諏訪湖周辺をとり囲む山の上を数回飛んだだけで、本能的に最も居心地のよい場所を決めていたことでしょう。そこは湖の東側、下諏訪から諏訪市に連なる山。ここはいく筋もの急な尾根が諏訪湖に向けて張り出し、その尾根筋には絶えず下から湧きあがる上昇気流があります。この気流こそ体が重いオオワシにとって飛び立ちを助ける乗り物なのです。

眼下の諏訪湖は水深も浅く大型のコイなど魚のほか、多くのカモなど餌となる生き物がいます。越冬期間、仮の棲みかとなる山は直接餌を狙える好条件に位置します。これこそがグルが居ついた最大の理由でしょう。もう一つ、オオワシがたくさんいる北海道では、餌捕りの学習能力が乏しい若い鳥は他のワシに負けるといい、自ら生きられる越冬地を開拓するため南下するのだそうです。



写真-1 高木のねぐらで



写真-2 ねぐらの周辺からは湖の様子がばっちり



写真-3 鋭い目で周囲を警戒



写真-4 枝に止まりまどろむグル



写真-5 いざ出陣！意気込みが伝わってくる

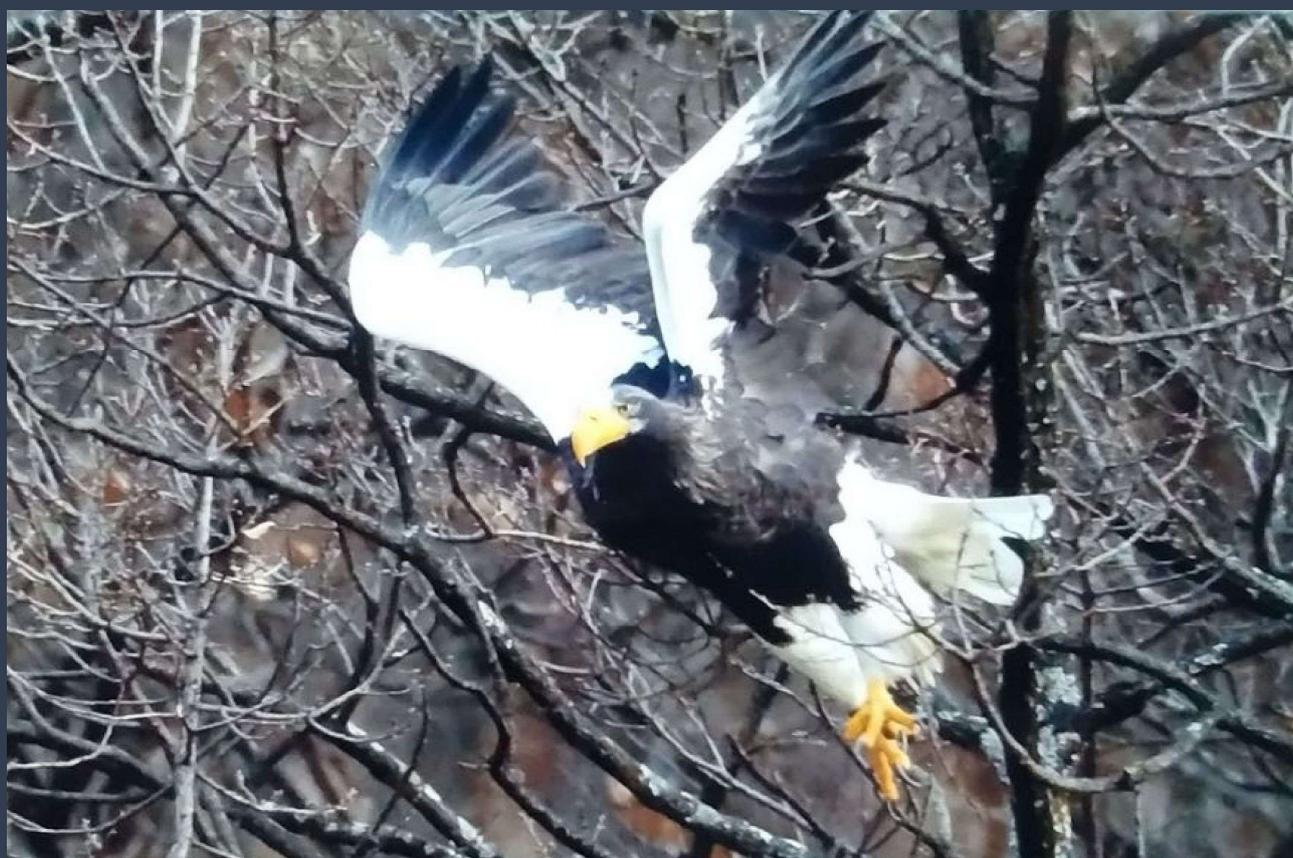


写真-6 木立の中から上手に飛び立ったグル

諏訪湖での狩りの様子

平成 25 年 (2013) 2 月 7 日 9 時 54 分～56 分



湖面のカモを首尾よくゲット
捕らえて舞い上がった



氷の上で食べたいな～



落とさないよう慎重に



邪魔されずにゆっくり食事



自慢の爪でしっかりとつかんで運ぶ



でも、いつの間にか周りにカラスたちが

写真-7 生きたカモを捕獲

平成 28 年 (2016) 1 月 16 日 13 時 57 分～13 時 59 分

狩りの瞬間

グルが狩りに出ると、諏訪湖全体の鳥たちに緊張感が漂よう。

オオワシは小鳥は狙わない。諏訪湖ではハトまでの大きさの鳥を捕らえられている。



カワアイサを急襲するグル



もう少しだ



あれ！一回目は失敗



再度挑戦です



今度は捕まえられたかな？



みごと成功

写真-8 生きたカモアイサを捕獲

平成 30 年 (2018) 1 月 31 日
14 時 33 分 ~ 15 時 14 分

氷の下から大物が

餌の乏しい冬は餌探しに必死。
氷の下に死んだコイを見つけると自慢の
嘴で氷を割って取り上げます。



少し出てきたぞ



氷の下にコイが見えるぞ！



よいしょっと！



薄氷を割るのはかんたん、かんたん！
嘴を突っ込んで …カラスが 2 羽に



どうだ、欲しいだろ

写真-9 氷の下の死んだコイをゲット



写真-10 捕らえた魚は外来魚のブラックバスか



写真-11 水しぶきを上げ獲物を持ち上げる



写真-12 獲物を持って旋回するグル



写真-13 さっそく食事場へ



写真-14 運ぶときは両方の爪で 右の脚に光る環が



写真-15 拾ったカモだが1回分の食糧には十分だ



写真-16 グルは決まって左足で魚をとらえた



写真-17 直後に両足でしっかり確保した



写真-18 右側の羽が欠けているのはグルの特徴



写真-19 生きたカモの他 時には死体もゲット



写真-20 爪を食い込ませてしっかり確保



写真-21 獲物はニゴイ 山に戻り木の上で食べるつもりか

諏訪湖での獲物の争奪戦



写真-22 カラスとトビ（右上）が横取りしようとやって来た



写真-23 食べ残しを狙っているカラスとトビ



写真-24 オオワシのすごみで逃げるカラスとトビ



写真-25 付きまとうトビを追い出すグル



写真-26 時に湖上ではオジロワシ（左）とのバトルも



写真-27 小さな魚でも空腹時は貴重だ

諏訪湖の氷上で食事中



写真-28 オオワシが見せる
警戒の独特なポーズ



写真-29 グルの周りに集まったカラス、トビ、アオサギたち



写真-30 何やら細長いものを引っ張って



写真-31 どうやら何かの腸のよう



写真-32

食事のあとは嘴の手入れ
首を左右に振って氷面で嘴を
ぬぐうグル」



写真-33 羽をむしって鳥を食べるグル



写真-34 枝の上で魚を飲み込もうとするグル



写真-35 氷の上から飛び立とうとするグル



写真-36 胸のふくらみは満腹の証かし



写真-37 山中の鉄塔わきで休むグル



写真-38 ここにもカラスが押し寄せる

オオワシ「グル」が勇壮に飛ぶ姿

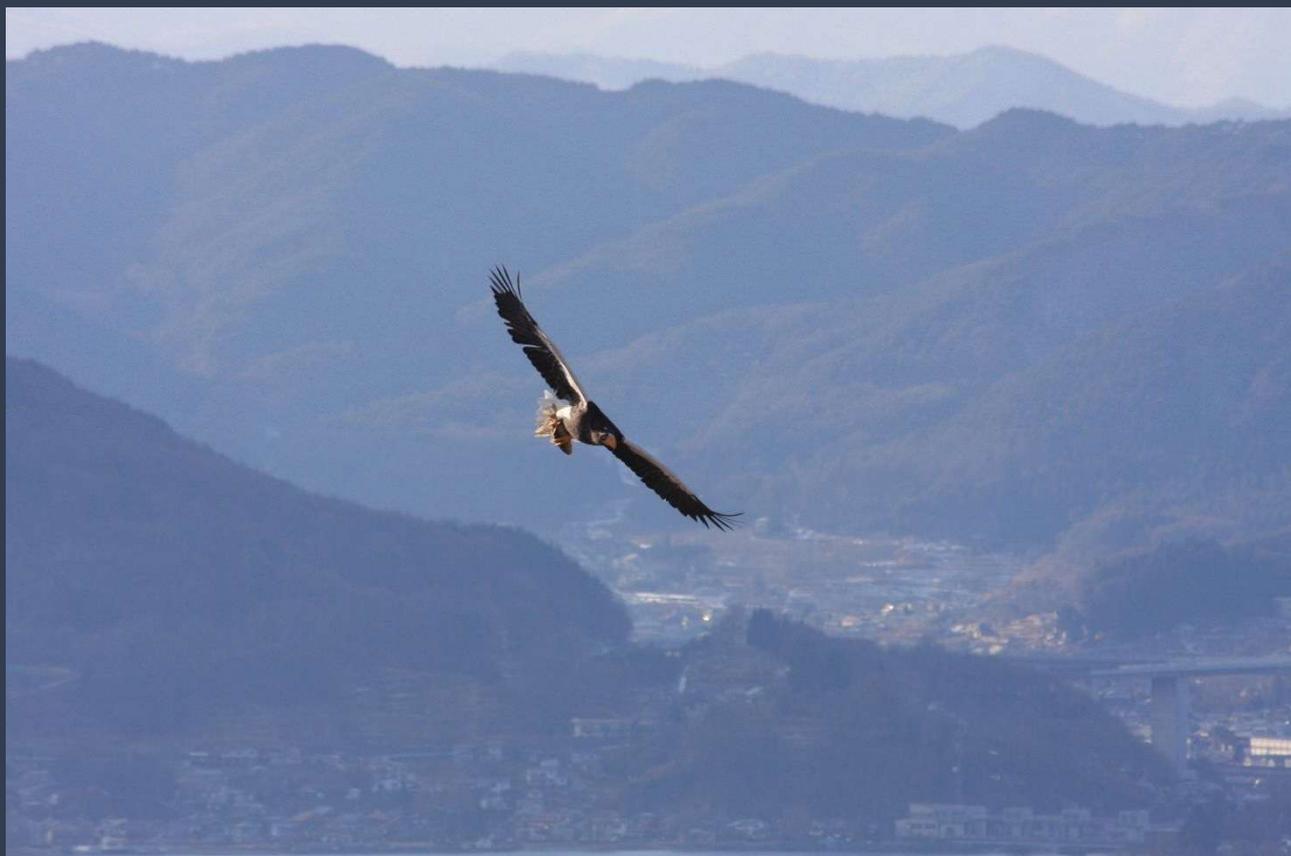


写真-39 山並みを背景に飛ぶ



写真-40 世界のワシの中でも際立って美しいオオワシ



写真-41 真下からの飛び姿、足もきちんとそろえて



写真-42 諏訪湖にやって来たオジロワシの幼鳥



写真-43 夕日を浴びて金色に輝いている



写真-44 翼をうちおろした飛行型



写真-45 諏訪湖からは、一富士、二鷹、三絶景も



写真-46 高島城をバックに氷上を飛ぶグル



写真-47 住宅地の上を飛ぶグル わかるかな？

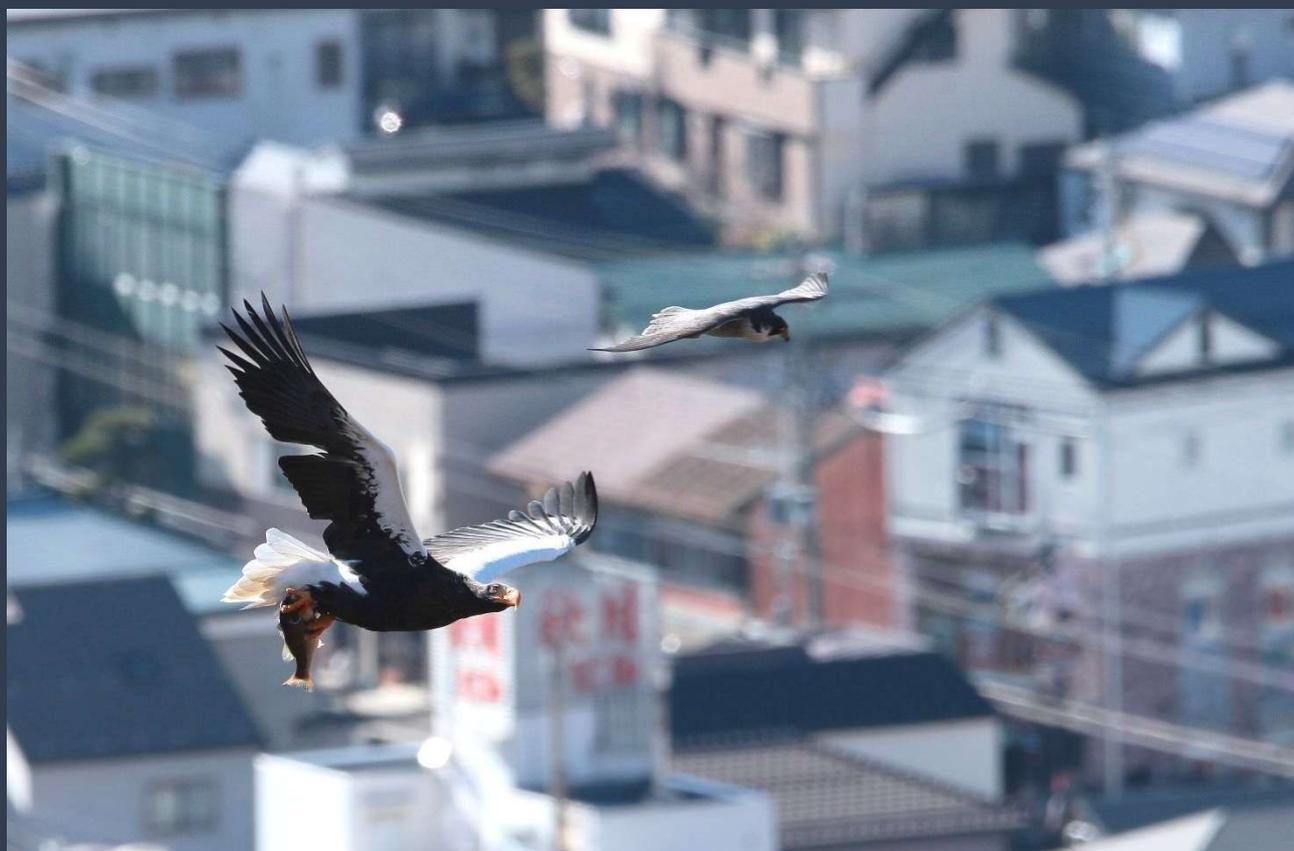


写真-48 街中の上空で 右上はハヤブサ



写真-49 大きな白鳥さんだ！



写真-50 カモ追いのモーターボートに飛び立つグル



写真-51 寒風除けのフードを付けた舟を見つめるグル



写真-52 大きなおさかなだ！



写真-53 白昼にグルの近くにやって来たイノシシ



写真-54 湖中の初島で鳥居に止まったグル



写真-55 北沢美術館の前の氷上でたたずむグル



写真-56 ホテル「しんゆ」の前を飛ぶグル



写真-57 残月とグル



写真-58 対岸には一目見ようと連日グルの愛好家が

忘れないで、オオワシ「グル」さん

◆令和3年5月11日(火) 諏訪地域振興局 元気づくり支援金事業「諏訪湖に学ぶ」を申請

内容；(1)冊子；オオワシ「グル」の記録の制作
(2)エルシーブイ放映番組のDVD化

諏訪湖クラブが元気づくり支援金事業を頂き、進めてきた冊子「諏訪湖を愛したオオワシ「グル」記録が完成しました。

制作に当たっては、岡谷エコロータリークラブさん、マリオくらぶさんから寄付金を頂き、感謝申し上げます。

◆令和4年1月27日(木) 午前10時～ 岡谷市役所教育長室 冊子；オオワシ「グル」の記録 贈呈式

諏訪湖クラブ沖野外輝夫会長より岡谷市教育委員会 岩本教育長に冊子；オオワシ「グル」の記録を手渡しました。

参加者 教育長 岩本博行

諏訪湖クラブ 沖野外輝夫会長 八幡義雄理事 林 正敏

岡谷エコロータリークラブ 2名

マスコミ関係者取材4社

冊子の仕様 A4サイズカラー 72ページ 印刷 6,000冊

配布先 諏訪郡市小学校30校、3,035冊 同中学

校17校、1,802冊、高校・大学125冊、諏訪郡市図書館

14冊、諏訪湖アダプト参加団体 294冊、諏訪湖創生ビジ

ョン参加団体 170冊他

当日は、岡谷湊小学校で林正敏さんの講演をして贈呈する予定でしたが、コロナ渦で感染レベルが5となってしまうのでできず、岡谷市教育委員会の計らいで岡谷市の岩本教育長に贈呈することになりました。

○反響が大きく読んだ感想や礼状が全国から寄せられました

「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』の記録」の冊子は、諏訪地方の小中学校など教育施設を中心に寄贈し、多くの子ども達に見ていただくことができました。この冊子は、諏訪湖に棲みついた1羽のオオワシ「グル」の生き様や、孤高に生きる雄姿、「グル」に魅了された人たちについて綴ったものです。諏訪湖に執着したオオワシの生態と、巨大なワシの命を維持できる諏訪湖がもつ包容力を、今の子ども達にどう伝え、さらに科学の芽を育ててもらうためにも、どう伝えたら良いか終始悩み続けながら、手元にある記録や資料をまとめました。

オオワシは近寄り難い野生動物です。けれども日々の「グル」の行動は諏訪湖畔や高台で観察できる幸運に恵まれ、鳥に興味のない方にも関心が向けられた類例のない鳥でした。その注目度を示すかのように、冊子の完成後には問い合わせが相次ぎ、残余の冊子の送り主からは、沖野会長や林のもとに感想を記した手紙や葉書、メールなど約50通も送られてきました。教育関係者、鳥類研究者、動物医療の関係者ほか一般者などで、とくに教育関係者からは「教育現場で活用したい」と嬉しい反響がありました。テレビや新聞報道を聞いて、一般の方からあるいは鳥に関する専門の方や関係施設から、ぜひ冊子を贈って欲しいとの連絡が多く寄せられました。



贈呈した冊子を手にもつ 沖野、林、八幡



全国から寄せられた礼状

■ 岡谷湊小学校で、林フク子さん、大和とし子さんの絵手紙展を開催

◆令和3年（2021年）10月25日（月）～29日（金）

岡谷市立湊小学校にて絵手紙の展示会を実施

場 所 岡谷湊小学校校舎内廊下展示スペース 高さ 1.45m×長さ 7m

展 示 岡谷市 林 フク子さんの作品 12点
 下諏訪町 大和 とし子さんの絵手紙
 林 正敏さんが作成した原寸大の「グル」型紙
 多分、本物のオオワシ「グル」を見たことの無い世代でしょうか、小学校前の諏訪湖に実際に生息していたオオワシのことに興味をもったようです。

林フク子さん他の多くの絵手紙を、冊子/オオワシ「グル」の記録で紹介したいと思いましたが多くの作品を紹介するのは難しいので、湊小学校で展示会を行い、その様子を掲載することにしました。



湊小学校で開催した絵手紙展の前で記念撮影
 手前右側は大和とし子さんの作品
 左から林正敏さん、大和とし子さん、
 林フク子さん



大和とし子さん作品



作品展示の様子、
 手前が、林フク子さんの作品



休み時間にやってきた子供たちは
 絵手紙を真剣に見ていました



林フク子作 2016年3月

紙芝居の制作は林フク子さんからの1通のメモから

◆令和4年6月23日(木)

林フク子さんから林正敏さんと八幡さんへのお願い文から紙芝居の制作が始まりました

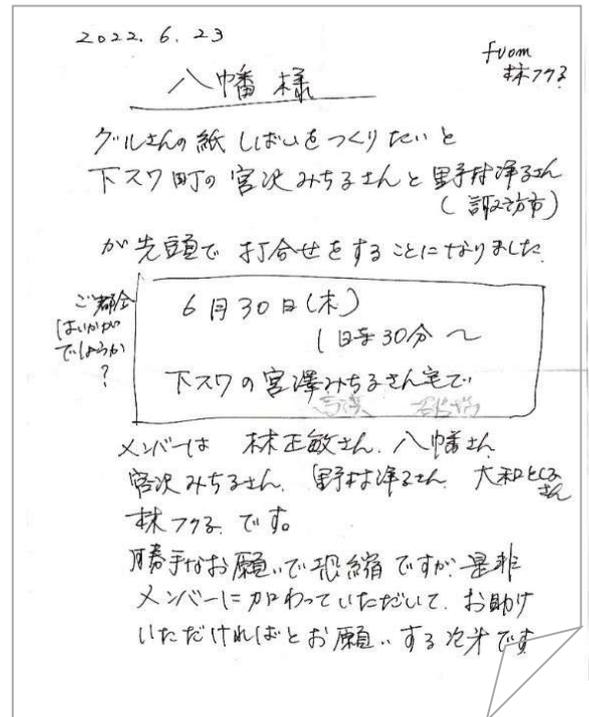
平成11年1月に諏訪湖に落ちて衰弱したオオワシが野鳥愛護者によって助けられ49日間の介護を経て放鳥されました。その後平成30年まで19年間にわたり冬期の諏訪湖に飛来したオオワシ「グル」は、地域の様々な人々に感動を与えました。そして諏訪湖が食物連鎖の頂点にたつ大型猛禽類が生きられる湖であることを改めて印象づけてくれました。

諏訪湖を愛し19年間やってきたオオワシについて地域との触れ合いを全く知らない保育園の園児達にも知って頂きたいと思い紙芝居を制作しました。

◆令和4年6月30日(木) 午後1時30分～

紙芝居作成の初会合

宮澤みち子さん宅(下諏訪町富ヶ丘)



林フク子さんからのお願い文



紙芝居の制作についての打ち合わせ

◆令和4年11月5日(土)



文と絵の検討会です



読み聞かせをしてお話です

◆令和4年11月26日(土)



大分絵が出来上がってきました

◆令和5年(2023年)9月12日(火)午前10時から 下諏訪町役場 庁舎2階 町長応接室
紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」贈呈式

参加

下諏訪町宮坂町長、松崎教育長、
諏訪湖クラブ 会長 沖野 外輝夫、
林 正敏、八幡 義雄、高木 保夫
絵手紙教室「福の会」宮澤 みち子、
大和 とし子、野村 洋子

内容 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」

B4サイズ12ページ 作成120部/文・絵；
林 正敏/企画；福の会/制作；諏訪湖クラブ

あらすじ

諏訪湖の近くに鳥の大好きな爺さんが住んでいました。ある日諏訪湖に溺れたオオワシを見つけ助けてあげました。餌を与えるなど一生懸命介護をしてあげ元気になったオオワシを放鳥してあげました。すると、約束で背中に乗せ御神渡り上を飛んでくれたり、諏訪湖の周辺の人たちにゴミを拾う等と呼ばかけ、地元の人たちもオオワシが住めるように諏訪湖をきれいにしていけるものがたりです。



長野日報掲載記事

◆令和7年7月11日 下諏訪町 宮澤みち子さん宅
オオワシ「グル」を介して国際親善です

オーストラリアからのホームステイの15歳の女の子二人を7月11~14日と三泊四日で迎え入れました。日本の事に興味があり勉強したいとの事でした。我が家が諏訪湖の近くにあった事も有り遊覧船に乗って湖上に出たり朝夕の美しく変わる湖を見て感動していました。今回、「オオワシと鳥きち爺さん」を英語版で演じたらどんな反応を示すかと挑戦してみました。英語力の乏しいたどたどしい英語での語りでしたが気持ちを入れて演じたのが通じたのか拍手してくれました。オオワシ「グル」の記録の冊子や諏訪湖に関する冊子をプレゼントしたら、とても喜んでくれました。

報告；宮澤 みち子



宮澤宅で紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」の英語での公演会



冊子；オオワシ「グル」の記録を手にして大喜び



紙芝居を前に宮澤さんとホームステイのフレアさん(左)とカイさんを囲んで

◆令和7年10月18日(金) 下諏訪町南小学校

下諏訪南小学校4年生対象に紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」を公演を行いました。

紙芝居の大きさ(B4サイズ)は十数人程度向けなので、大きな紙芝居も制作し公演をしました。①

参加 4年生児童 74人

福の会(絵手紙の会;紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」制作に参画);宮沢 みち子、なぎがま CS 読書部会

下諏訪南小の読み聞かせの時間にグルの紙芝居を上演しました。4学年の児童達でしたが授業で諏訪湖について学んでいた事もあり、とても熱心に見てくれました。

【紙芝居上演の経過】

令和5年度 4回 108人

9月30日 下諏訪町立図書館

10月1日 諏訪湖の日のフォーラムで紙芝居展示

10月14日 諏訪図書館読み聞かせ読み聞かせ会

11月20日 みなと保育園で年長年中の園児 ②

11月16日 シニア大学にてPPで上演 ③

令和6年度 3回 60人

5月11日 デイサービス湯の郷 諏訪市

8月26日 大型版紙芝居完成

11月6日 和が家「新倉」岡谷市 上演

3月26日 ザ・くるま座(湖畔病院)岡谷市 ④

令和7年度 17回 626人

4月30日 ウェルハートおかや 岡谷市

5月22日 絹の郷 岡谷市

6月13日 とよだの社 諏訪市

7月11日 国際親善オーストラリアの留学生に

7月21日 子供夢広場 茅野市

8月11日 西山の里 諏訪市

9月11日 グレイトフル岡谷(GH)

9月22日 グレイトフル岡谷(DS)

10月3日 ケア梨久保 岡谷市

10月6日 柴宮館 岡谷市

10月18日 下諏訪南小学校4年生 ①

11月19日 デイサービス 湯の里 岡谷市

12月19日 下諏訪南小学校6年生

令和8年

1月16日 下諏訪南小学校5年生 76名

1月22日 シニア大学で林正敏さん講演会にて ⑤

2月13日 下諏訪南小学校低学年 95名

2月20日 こなみ保育園 松組 竹組

これまでに24回 794人



①大型紙芝居の上演



②真剣に聞いてくれました



③3班によるステージ発表



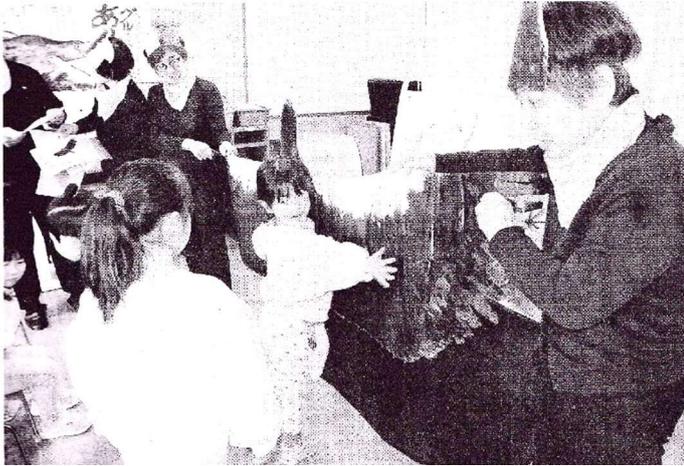
④感激して涙を流す人もいました



⑤シニア大学で林正敏さん講演会にて

なお、図書館、小学校、保育園及び介護施設他での紙芝居の公演は、福の会、なぎがま CS 読書部会、シニア大学 OB「ウイングズ 42」他の協力を頂き、行っています。+

◆令和8年2月20日(金) 10時～ 諏訪市こなみ保育園
 オオワシ「グル」モデルの紙芝居公演



諏訪 諏訪湖の環境改善に取り組む「諏訪湖クラブ」は20日、長年にわたって諏訪湖に飛来していたオオワシ「グル」をモデルにした紙芝居の読み聞かせを、27人に人と自然の結びつきの

オオワシ「グル」モデルの紙芝居 人と自然 結びつきの物語

諏訪湖クラブと福の会

こなみ保育園で読み聞かせ

「グル」の大きさを等身大の型紙で説明



←グルの大きさを等身大の型紙で説明



介護の様子を話される林正敏さん→

湖で弱っていたオオワシを救ったことをきっかけに、住民たちが諏訪湖の浄化に取り組んでいく物語。1999年にグルを保護した同クラブ会員で日本野鳥の会諏訪支部名誉支部長の林正敏さん(82)が絵と文を手掛けた。諏訪を愛し諏訪に愛されていたグルの存在を子どもたちにも知ってもらおうと企画された。

湖で弱っていたオオワシを救ったことをきっかけに、住民たちが諏訪湖の浄化に取り組んでいく物語。1999年にグルを保護した同クラブ会員で日本野鳥の会諏訪支部名誉支部長の林正敏さん(82)が絵と文を手掛けた。諏訪を愛し諏訪に愛されていたグルの存在を子どもたちにも知ってもらおうと企画された。

2月25日長野日報掲載記事



紙芝居を真剣に聞く園児



公演したスタッフと記念写真

◆令和8年2月25日(水) 午前8時50分 こなみ保育園

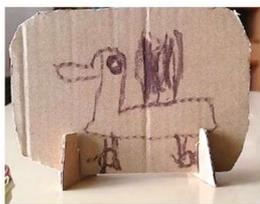
徹平君を保育園に届けたところ、徹平を待っていたかのように、昨日作ったオオワシ「グル」を使った寸劇が始まりました。



① オオワシグルと餌たちを作りました
2月24日午後4時50分撮影



② 弱っているオオワシ「グル」にカモさんを上げました



徹平君が作ったカモさん



③ 網で捕ったお魚を食べやすいようにしてあげています。



④ 元気になったグルを放してあげました。



⑤ 翌年から、諏訪湖にオオワシがやって来ました。青い布でできた諏訪湖の上をオオワシ「グル」が飛んでいます



⑥ オオワシさんがとびあがるところです

編集後記

諏訪湖のオオワシ、グルについてこれまで諏訪湖クラブでは、令和5年に「オオワシ『グル』の記録」と紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」（冊子を含む）を制作してきました。その主な目的は、未来をにやう地域の子もたちに、夢を描きながら諏訪湖のあるべき自然を考えてほしいとの願いによるもので、諏訪地方の各学校や図書館などに寄贈をいたしました。

今回の写真集「諏訪湖のオオワシ『グル』」は100枚以上の記録写真をもとに、オオワシの生きざまや大型猛禽類の生存可能な諏訪湖、さらにグルに魅了された人たちにより今なお続く活動などを紹介しました。掲載した写真はこれまでにご提供頂いた多くの皆様の熱意によるものです。あらためてお礼を申し上げます。

氷結が難しくなった冬の諏訪湖ですが、この写真集はオオワシやオジロワシなど魅力あふれる猛禽類の再来を願う一冊になれば幸いです。

林 正敏

○この写真集を制作するにあたり、ご協力を頂いた方々に感謝申し上げます。（敬称略）

写真撮影 滝澤 義昭（辰野町）

加藤 静（故人）滝沢 栄二、林 正敏（以上岡谷市）

小林 俊樹、中島 忍、宮坂 忠彦、八幡 義雄（以上諏訪市）

両角 英晴（茅野市）

製作協力 福の会 林フク子（故人・岡谷市）宮澤 みち子、大和 とし子（下諏訪町）

野村 洋子（諏訪市）

なぎがま CS 読書部会（下諏訪町）シニア大学 OB「ウイングズ42」（諏訪市）

諏訪市こなみ保育園（諏訪市）



永遠の「グル」

諏訪湖のオオワシ「グル」写真集

編集 林 正敏・八幡 義雄

発行 令和8年3月

諏訪湖クラブ

住所 392-0017 諏訪市城南二丁目2 3 6 2